

安心・安全で元気な地域づくりを目指して

第2号

# 柏崎市コミュニティ推進協議会 だより

## コミュニティ40周年記念事業が開催されました

昨年 11 月、柏崎市産業文化会館において「柏崎市コミュニティ 40 周年記念シンポジウム」が開催され、コミセンや町内会関係者を中心に 380 名もの参加がありました。柏崎市でコミュニティづくりが始まってから 40 年を迎えましたが、これまでの歴史を振り返り、将来を見据えたコミュニティのあり方を考えていただくよい機会になりました。

今号ではこのシンポジウムについて特集します。

### 基調講演「コミュニティづくりのこれまでとこれから」

岐阜大学地域科学部准教授 山崎 仁朗 さん



#### 1 「コミュニティづくり」とは何だったか

そもそも「コミュニティ」とはどこから来た言葉なのでしょう。

昭和 44 (1969) 年に国が設置する国民生活審議会が、「コミュニティ生活の場における人間性の回復」というある有名な報告書を出しました。

折しも、日本は高度経済成長の末期であり、各地で開発が進められ経済

はどんどん上向いたけれども、地域社会に様々なゆがみが生まれていた時代でした。農村からは人がいなくなり御興の担ぎ手がないなど地域の伝統行事が継続できない状況が生まれ、一方、都市においては地方から大量に流入した、背景を異にする多くの人々がどうやって一つの地域を作っていくのか、そういったことが課題としてクローズアップされた時期でした。

この報告書の中に込められた思いというのは、「これまでの地域社会は個人の自由が束縛されがちで閉鎖的だった。その古いものを一回払拭して、新しい形の地域社会をこの日本に作っていこう」というものでした。また、開放的で自発的な新しい地域社会という意味を象徴的に、あえてカタカナの「コミュニティ」という言葉を使って示したということだったと思います。

その 2 年後に、今度は自治省 (今の総務省) がコミュニティに関する施策を始めることになり、「モデル・コミュニティ地区」を全国で 83 地区指定することになります。この中には柏崎市の中鯖石地区も含まれるわけですが、この取組には、「行政がコミセンの建物を作る⇒建物の維持管理を地域に委ねる⇒地域住民が建物の管理をきっかけにして主体的に新たな地域社会を作る」という基本的な考え方がありました。こういった取組によって、新たな地域づくりの担い手や組織づくりを進めて欲しいという思いがあったわけです。

#### 2 柏崎市のコミュニティづくりの特徴

##### ①コミセンと公民館活動と連携させていること

柏崎市では、コミセンが作られた当初から公民館の活動と連携させるということを方針として盛り込んでいました。一般的には、コミセンができる以前から活動していた公民館と、新参者のコミセン

ですから、お互いに排他的になる傾向があります。ところが、柏崎市では、コミセンは公民館が積み上げてきたものをさらに発展させる器なのだということを意識してコミュニティづくりに取り組んでこられた。これは柏崎市が全国に誇れる実績だと思います。

## ②コミセンが市の全域に作られたこと

市民の皆さんにとっては、どの地区にもコミセンがあるのは当たり前ということかもしれませんが、全国的に見ると当たり前のことではありません。全地区にコミュニティ組織を作ることがいかに大変かというのは私自身感じているところです。

## 3 これからのコミュニティづくりに求められること

### ①地域に住むことを保障すること

「地域に住むこと」は当たり前のように聞こえますが、今回の東日本大震災で福島の方々は地域に住むことができなくなっている。住みたいけれど住めない、そういう状況が生まれてしまいました。コミュニティを作るといことは、その地域に住むことを保障することであるという点をまず確認しておきたいと思います。



### ②自治活動、地域活動を継承・発展させること

歴史的に作り上げられてきたこと、地域で取り組んできたことを継承させ、さらに発展させていくことが必要だと思います。自治体の合併などが繰り返されると、今まで積み重ねられてきたことがないがしろにされる傾向にあり、それは大変不幸なことだと思います。

### ③地域住民が主体であること

近年、コミュニティに対しては親睦交流やイベントだけではなく、地域課題を拾い出して解決していくことが求められるのだということがよく言われます。その意義を否定するつもりはありませんが、他方で担い手不足という言葉も耳にします。あまりに大きな課題を抱えることになると、かえって住民参加の目を摘んでしまうことにはならないかと危惧しています。

より広く地域住民から参加してもらうためには、住民が定期的に集まりお互いにコミュニケーションをする中で、地域のことを議論する場を作る。まずは、こういったことがより広い意味での参加につながるのではないのでしょうか。

さらに付け加えるならば、そういった場で地域住民が議論した意見を酌んで、それを実際の行政施策に反映させるような仕組みを作っていくことが、これからのコミュニティのあるべき姿ではないかと考えています。

## 客席との意見交換

### A 「コミセン会長にも市から報酬を出すべきではないでしょうか」

コミセン会長は町内会長が兼務する場合も多く、行政と地域は対等であることを考えると、市が町内会長に報酬を出すというのはいささか具合が悪いと思います。

このためコミセン会長には報酬を出してこなかったという経過があります。





**B 「神社や寺院といった宗教的なこととコミセンや町内会活動との関わりはどう考えたらよいのでしょうか」**

現在は政教分離で宗教に公的なお金を出したりすることが難しくなっています。ただ、日本では地域の中に氏神様がいて、お宮があってという歴史の中で地域をつくってきました。こういった歴史を踏まえ、地域にとって昔から関わってきた宗教については、地域の裁量で引き続き関わっていくということでもいいのではないのでしょうか。

**C 「旧住民と新住民が混在した町内会で旧住民の発言権が強い状況です。新住民が増えてきており、町内会長や役員をどのように選んだらよいか悩んでいます。」**

昔からのやり方などは地域事情で色々あるとは思いますが、昔のやり方に固執することで、新たな担い手が出てこれないというのは地域にとって不幸なことです。地域の運営の仕方はそれぞれにあると思いますが、新住民に対しては、活動へ参画してもらうよう地道な取組を継続する以外に方法はないと思います。



**D 「地域活動の継承というお話について、具体的にいつ頃の活動のことを指すのか教えてください」**

昭和 32 (1957) 年前後にあった「昭和の大合併」で明治時代に作られた村がなくなりました。それらの村を作ってきた時代に行っていた活動のことを指してお話しました。

**E 「コミセン活動はややもすると普段から家にいる人を対象にしがちだと思います。現在の日本は少子高齢社会であり、子どもや青少年の力を地域活動に取り込むことも必要ではないかと思いますが、いかがでしょうか。」**

柏崎市の各地区でも地域活動に若者の力を取り込むための種はまいているようです。若い方々に活動に関わってもらう中で、また新たな担い手を作っていくことが大切なことだと思います。

## ま と め

基調講演の後に行われた「地域づくり実践事例発表」のコーナーでは、中鯖石、高柳、枇杷島の3つのコミセンの代表者から日頃のコミセンの取組についての発表があり、それぞれのコミセンから、地域の特性を活かした地域づくりの様子が報告されました。

柏崎市のコミュニティ活動は、他のどの地域もやっていない独自の形態で行われており、先生のお話によれば、ある意味で日本の最先端といってよい誇れる地域であるということです。このため、お手本になるモデルは存在せず、日々の活動の中で自分たちが工夫していかなければならない面が多くあると思います。

参加者の皆さんは、地域住民の皆さんと町内会、コミセンが互いに連携して住み良い地域、安全で活力あふれる地域を作るために頑張っていこう、という気持ちを新たにされたのではないのでしょうか。



# 元気なコミセンにお邪魔します

## 第2回

### 上米山コミュニティセンター



「まず、地域の人達が楽しむことをモットーに少しずつまわりを取り込めるよう役員一同力を合わせ頑張っています。」と語るセンター長の赤川さん



上米山地区は、米山の麓に位置し、柏崎市民へ給水の大役を果たす上水道の貯水池・米山湖、赤岩ダムを抱える自然豊かな地域です。

地域では、『水の里 人も文化も いいねっか』をスローガンに、「自然との共生と活用」、「健康と安心な暮らし」、「文化・交流・発信」の3つの重点目標を掲げ、地域づくりに取り組んでいます。

その中でも特に環境美化事業では、地域の方々も積極的に活動に参加し、地域の自然を守る意識が高まっています。樹や花の植栽は成果が目に見えるので、参加者がやりがいを感じ、楽しみながら活動を行っています。

また、近年の度重なる災害を克服するため、自主防災組織を立ち上げ、防災訓練を行うなど地域の防災意識の高揚が図られています。

人口が減少していく中で、苦しいことやつらいことは忘れ、とにかく楽しいことを地域内でやろう、住んでいる限り、上米山地域を好きになれるようにと、毎日頑張っています。

## 柏崎駅掲示板

### がリニューアル!



JR柏崎駅が一部改装され、3月に新しい待合室が目見えました。以前の待合室は、線路側で少し暗い印象でしたが、今回の改装により、非常に明るくてきれいな待合室になりました。

コミュニティ推進協議会広報部会では、これまでも待合室の掲示板を利用したコミュニティ情報の掲示を行ってまいりましたが、リニューアル後も引き続き事業を継続しています。

季節にちなんだ地域情報を中心に掲載しておりますので、柏崎駅にお立ちよりの際は、ぜひ待合室のコミュニティ掲示板をご覧ください。

